

仙台大豆作情報

令和5年度第4号

令和5年10月16日発行

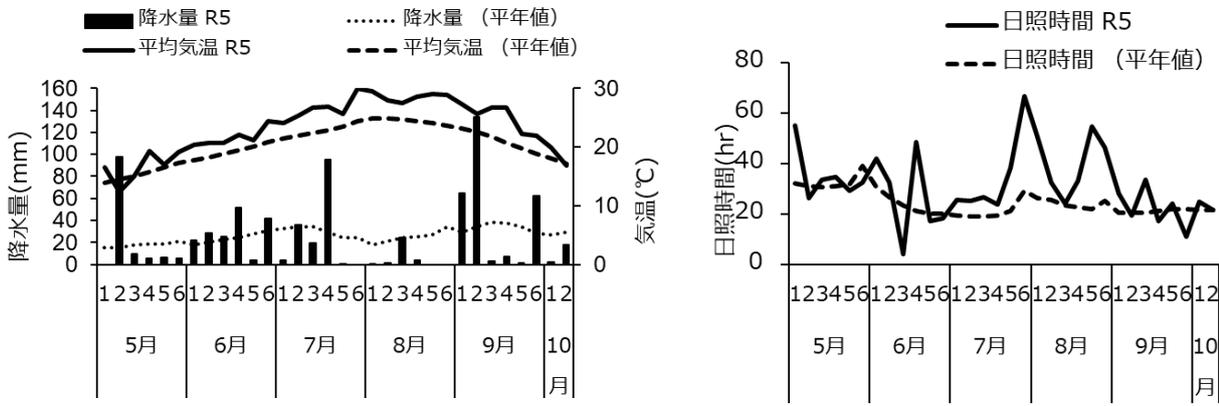
宮城県仙台農業改良普及センター

TEL 022-275-8410

収穫作業のポイント

汚粒の発生を防ぎ、整粒歩合を高めて上位等級に入る品質を確保しましょう！

1 気象経過 (5/上~10/上)



2 生育概況 (標播)

表 生育調査ほ調査結果 (10月13日時点)

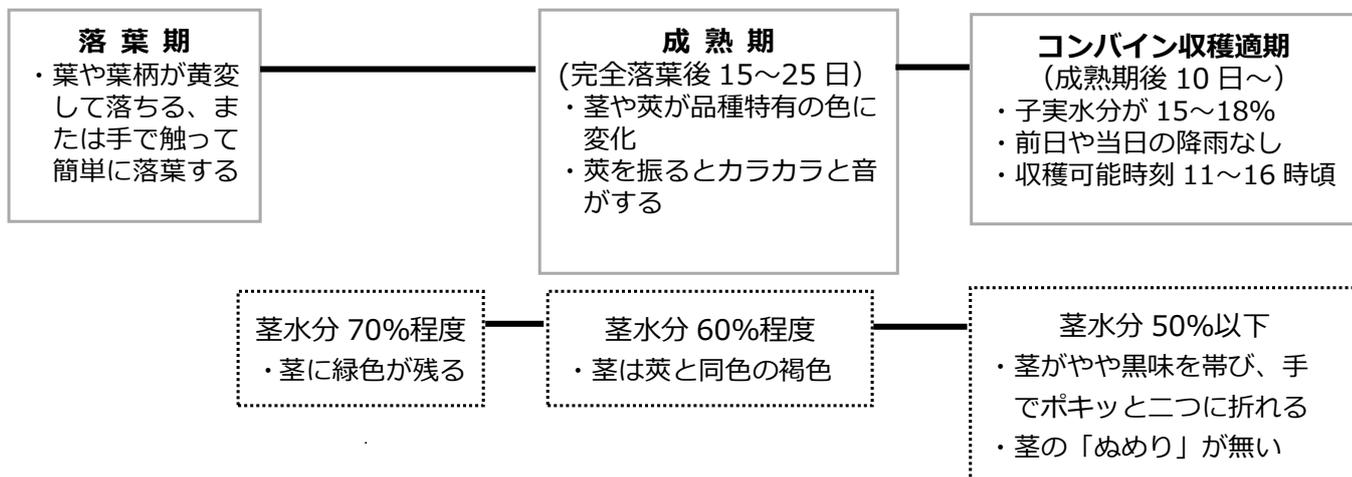
品種 (地区)	調査年	播種日	開花期	主莖長 (cm)	主莖節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	分枝節数 (節/本)	着莢節数 (節/本)	有効莢数 (莢/m ²)	成熟期
タンレイ (宮城野区岩切)	本年	6月8日	7月29日	58.8	13	2	24	26	925	
	前年	6月20日	7月31日	58.0	14	3	10	16	568	10月17日
	平年	6月7日	7月29日	64.6	15	4	19	23	632	10月16日
ミヤギシロメ (若林区荒井)	本年	6月20日	7月29日	74.8	17	4	30	30	554	
	前年	6月21日	7月31日	63.5	15	5	24	29	460	11月7日
	平年	6月8日	7月29日	72.4	15	5	25	27	442	11月3日

- ・タンレイ、ミヤギシロメともに、着莢節数及び有効莢数が、平年と比べて多くなっています。
- ・ミヤギシロメでは軽度の蔓化、倒伏が見られました。
- ・10月13日時点において、ミヤギシロメは黄葉期の終盤で、まもなく落葉期を迎えます。成熟期は、現時点では平年並みの11月上旬頃となる見込みです。
- ・10月13日時点において、タンレイは落葉期の終盤で、成熟期は平年並みかやや遅い見込みです。
- ・今年はチョウ目幼虫による葉の食害が多く見られました。また10月13日時点において、両調査ほ場でカメムシ類やフタスジヒメハムシが確認されており、品質面への影響が懸念されます。

3 収穫作業のポイント ～適期収穫と汚粒対策～

コンバインによる収穫適期の判定は、子実と莢の水分がポイントです。莢・莢の色や莢内での子実の振動音、莢の切断音など総合的に判断する必要があります。大豆の成熟経過を以下に示しますので、ほ場ごとの生育ステージを把握して作業計画を立てましょう。

【大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期】



大豆のコンバイン収穫において問題となるのは「汚粒」です。以下の点を十分に理解して収穫作業を進めましょう。

- (1) 収穫前に雑草や青立ち株を除去し、汚粒の発生を防ぐ
莢や実の色がある雑草（イヌホオズキなど）、大型で乾いていない雑草（アメリカセンダングサなど）、青立ち株は莢水分が高く汚粒の発生原因になります。
収穫前に可能な限り抜き取りましょう。
- (2) 適期収穫を行う
コンバインによる収穫判断は、子実水分や莢水分を目安に行いましょう。子実水分が高い（20%以上）とつぶれ粒等の発生が多く、水分が低い（14%以下）と、割れ豆等を主体とした損傷粒が多く発生する傾向があります。また、莢水分が高いと汚粒発生の原因になります。
- (3) 刈り取り時刻は、午前 11 時～午後 4 時頃
莢や子実水分が高まる時間帯を避け、午前 11 時から午後 4 時頃に収穫しましょう。前日に降雨があった場合は、莢の水分状況を確認してから作業をしましょう。
- (4) 作業速度を抑えて、土を掻き込まない
汚粒発生の一番大きな原因として「土の掻き込み」があげられます。**約 10cm 以上の刈り高さを確保**するとともに、作業速度はゆっくりとし、コンバインの刈刃が土を掻き込まないように注意しましょう。特に「生育が旺盛で作物量が多い」、「倒伏している」などの場合はさらに作業速度を抑えて刈りましょう。

4 乾燥作業

県産大豆は大粒種の生産が多く、吸水性にバラツキが出やすくなります。乾燥調製作業では大豆の吸水性に大きな影響を及ぼす穀粒水分と粒揃いが、最も重要なポイントです。

(1) こまめな水分測定

ほ場によっては、子実水分のバラツキが大きい場合があるので、**こまめに水分測定**を行きましょう。

(2) 適正な乾燥温度

- ・循環式乾燥機等による加温乾燥の場合は、**熱風温度を 30℃以下**とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・平均水分が 18%を超える場合は、さらに熱風温度を下げ乾燥しましょう。

(3) 処理能力に見合った流量調整

仕上がりは、被害粒や異物がなく、子実水分は 13%程度で、よく成熟した粒揃いの良いものを目標に調製しましょう。

5 東北地方 1 か月予報 (令和 5 年 10 月 12 日 仙台管区气象台発表)

予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

秋の農作業安全確認運動 ～令和 5 年 9 月 1 日から 11 月 30 日まで～

農作業安全確認運動テーマ 『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

令和3年の農作業事故死亡者数は 242 人であり、就業者 10 万人当たりの死亡事故者数は 10.5 人となっており、他産業に比べ依然として高い状態です。以下の対策を徹底しましょう。

【事故防止対策】

- ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践
(危険箇所での減速、危険箇所の迂回ルートの設定など)
- 危険箇所の改善(道路端や曲がり角の草刈り、路肩の補強など)

【被害軽減対策】

- シートベルトとヘルメットの着用
- 安全キャブ・フレーム付きトラクターの利用

